

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第68号

2013年4月26日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. 第24回全国研究大会（2013年度総会）のご案内

開催日：2013年6月8日（土）・9日（日）

会場：名古屋商科大学 日進キャンパス CGC棟（〒470-0193 愛知県日進市米野木町三ヶ峯4-4）

*大会案内ウェブサイト：<http://www.nucba.ac.jp/research/australia.html>

*交通アクセスについては6頁もご参照ください。

□6月8日（土） 第1日目

10:00～12:30 理事会（ISビル会議室）

13:00 受付開始（CGC棟3F 7303）

13:30 開会

司会 永野隆行（オーストラリア学会副代表理事・獨協大学）

開会挨拶 有満保江（オーストラリア学会代表理事・同志社大学）／開催校挨拶

13:40 在日オーストラリア大使館からご挨拶 Tom Connor 主席公使 *同時通訳つき

14:00～14:45 特別講演 *同時通訳つき

“You’re gunna get wacked!”: the political economy of carbon and mining tax reforms

— The Australian experience — 講師 Justin Dabner（ジェームズ・クック大学／

東京大学 CPAS 客員教授）

15:00～17:30 豪日交流基金助成シンポジウムⅠ *同時通訳つき

「政治、ビジネス、社会におけるオーストラリア女性」

司会 川口章（同志社大学）

報告者 Anne Daly（キャンベラ大学）「日豪の女性、仕事、ダイバーシティについて考える」

Laura Dales（西オーストラリア大学）「オーストラリア労働市場における女性の地位の変化」

岸智子（南山大学）「女性就業の日豪比較」

討論者 森島覚（追手門学院大学）

18:00～19:30 懇親会（コミュニティ・パビリオン）

□6月9日（日） 第2日目

9:30 受付開始

10:00 一般個別研究報告

～12:00 第一分科会（CGC棟3F 7303）

～12:30 第二分科会（CGC棟3F 7301）

12:00～13:00 昼食休憩／理事会（ISビル会議室）

13:15～13:45 総会

14:00～16:50 豪日交流基金助成シンポジウムⅡ（CGC棟3F 7303）

「オーストラリアの高等教育とアジア—『グローバル人材育成拠点』として」

司会 石井由香（静岡県立大学）

報告者 Tom Yates（在福岡オーストラリア総領事館総領事）「グローバル人材育成拠点としてのオーストラリアの魅力—大学と企業研修の事例から」（仮）

工藤和宏（獨協大学）「カリキュラムの国際化と学習成果—オーストラリアの大学で『グローバル人材』は育つのか」

杉村美紀（上智大学）「アジアにおける高等教育政策と『国際高等教育』の展開」（仮）

討論者 杉本和弘（東北大学）「アジア太平洋地域における人材育成—日本の高等教育の課題」（仮）

16:50 閉会挨拶

- ◆ 出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用はがきに必要事項をお書き込みのうえ、5月31日（金）までにとどくようにご投函ください。
- ◆ 昼食：会場周辺には飲食施設がございません。各自でご用意いただくか、同封の返信用はがきにてお弁当をご注文ください。なお、学内行事により、学内飲食施設の利用が可能になる場合もあります。大会案内ウェブサイトでご確認ください。
- ◆ 宿泊先：藤ヶ丘駅近くの「ホテルサンプラザシーズンズ」にお部屋を若干数ご用意しております。（シングル8,000円、朝食1,000円）8日懇親会后と9日朝、会場ーホテル間の送迎用のマイクロバスを手配しております。宿泊をご希望の場合は、5月8日（水）までに鎌田（e-mail: australia@nucba.ac.jp）までご連絡ください。その他の宿泊先は各自で確保願います。
- ◆ 懇親会：懇親会費は5,000円（学生会員3,500円）を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は、必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。

*プログラム等は変更される可能性があります。詳細は大会案内ウェブサイトでご確認ください。
 *本大会開催にあたってオーストラリア大使館・豪日交流基金、名古屋商科大学より多大なご支援をいただいています。

2013年度オーストラリア学会特別講演・シンポジウム概要

特別講演 Justin Dabner “You’ re gunna get wacked!”: the political economy of carbon and mining tax reforms – The Australian experience –

On 1 July 2012 Australia introduced two of the most significant tax reforms in recent years: a mining super profits tax and a carbon tax / emissions trading scheme. Both developments have been highly controversial and were accompanied by considerable public debate, lobbying and even media and advertising campaigns. This paper explores the political economy behind the introduction of these globally innovative tax regimes with a view to identifying whether there are any lessons for other nations considering similar initiatives.

シンポジウム I 「政治、ビジネス、社会におけるオーストラリア女性」

我が国では1985年に男女雇用機会均等法が制定されたものの、今も男女の機会均等が達成されているとはいいがたい。日本は、OECD諸国のなかで、国会議員数、就業率、賃金、管理職数などの男女格差がもっとも大きい国の一つである。家庭内の性別役割分担もはっきりしている。他方、オーストラリアでは、ジュリア・ギラード首相をはじめ、政治、ビジネス、社会で活躍する女性が多い。なぜ、日本では女性の活躍が難しいのか、なぜオーストラリアは女性が活躍できる社会になったのか。日豪の経済学、ジェンダー学の研究者を迎えて、二カ国のジェンダーに関する実態を比較し、日本女性の社会参画への課題を検討する。

シンポジウム II 「オーストラリアの高等教育とアジアー「グローバル人材育成拠点」として」

グローバルな人の移動がますます活発化する現代において、高度な技能を持つ人材の確保は各国の危急の課題となっている。高等教育はこうした人材育成のために変容を迫られ、大学も教育の質の向上が求められている。オーストラリアでは、高等教育を経済・対外政策の一環として位置づけ、特にアジアからの留学生を受け入れるために積極的なキャンペーンを展開してきた。オーストラリアが先駆けとなったオフショアプログラムや、海外におけるブランチキャンパスなどを含め、今ではさまざまな国や教育機関が同様のプログラムを展開するようになっている。国際化が進展するオーストラリアや東南アジア地域の高等教育現場の動向を紹介し、日本の高等教育に示唆するところを考える。

**2013年度オーストラリア学会全国研究大会
一般個別研究報告者および報告要旨**

第一分科会 10:00~12:00 (CGC棟 7303教室)

司会 田澤佳昭 (東京未来大学)

(1) 濱野健 (北九州市立大学文学部非常勤講師)

論題: 国策としてのオーストラリア移住: 戦後日本の海外移住政策と新たな日豪関係の間で

要旨: 本報告では、国際協力事業団により企画された、1970年代末期からの豪州移住プログラムの実態を明らかにする。当時、南米を中心とした戦後の国策移住制度がその終焉を迎えていた一方、日豪関係の新たなパラダイムは、高度経済成長期の活発な交流の先に、日本から豪州への技術者移住制度の導入に繋がった。そこで、様々な資料を分析し、戦後日本の海外移住政策の終焉期に実施された豪州への移住制度の実態と、その顛末について明らかにすることを試みる。

(2) 藤岡伸明 (一橋大学大学院社会学研究科博士課程)

論題: 「クール・ジャパン戦略」における国際文化交流制度の重要性- 豪州日本食産業で働く日本人ワーキングホリデー渡航者の事例から考える

要旨: 近年、日本政府は「日本の文化」に関連する商品やサービスの海外進出(輸出と企業の事業展開)を促進するための施策(「クール・ジャパン戦略」)に注力している。なかでも「日本の食文化」に関わる業種は、すでに一定の成果が出ているモデルケースとして注目を集めている。そこで本報告では、豪州日本食産業の発展を可能にした要因を、人材・労働力の供給という観点から考察する。具体的には、報告者が豪州で実施したフィールドワークに依拠しながら、現地日本食産業で働く人材・労働力の確保に際してワーキングホリデー制度が重要な役割を担っている点を明らかにする。

(3) 小野塚和人 (一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)

論題: ケアンズにおける地域社会変動と「観光による都市化」

要旨: 1980年代からの日本企業を主導としたケアンズにおける観光開発は、受入社会にどのような影響を及ぼしたのか。パトリック・マリズによる「観光による都市化」命題は、ケアンズの観光開発に伴う社会変動の分析に有用な視座を提供する。本報告では、ケアンズを題材とし、1)観光開発に伴う産業構造の変化、2)エスニシティと人口動態、3)ジニ係数の計算による所得格差の動向を考察することにより、「観光による都市化」命題の発展を試みる。

第二分科会 10:00~12:30 (CGC棟 7301教室)

第一部 (10:00~11:15)

司会 安田純子 (郡山女子大学)

(1) 一谷智子 (西南学院大学)

論題: 核とオーストラリア文学——B. ワンガールの写真集と連作小説を中心に

要旨: 福島原発事故以来、「原子力」という観点から日豪関係が再検討されている。その過程で、ウラン採掘が先住民に与えた影響があらためてクローズアップされ、この問題への日本の連累も問われている。本報告では、豪州北部で先住民と暮らし、1950年代の英国による核実験と、その前後続いたウラン採掘が先住民に与えた影響を写真と文学作品に表象したセルビア系移民作家B. ワンガーを取り上げる。ワンガーの作品は、アイデンティティの詐称問題や核問題への言及のため、豪州では正當に評価されてこなかった。本報告は、写真集と小説群の分析を通して、ワンガー作品の現代的な意義を見出し、「越境作家が成し得た核批評」という観点から再評価を試みる。

(2) 湊圭史 (立命館大学)

論題: SF的〈孤児〉: G. イーガン『ディアスポラ』とA. マガン『神なき世界の驚異』における環境と主体

要旨: 「孤児」を主人公とするオーストラリアのSF小説2篇(Greg Egan, *Diaspora* (1997)とAndrew McGahan, *Wonders of a Godless World* (2009))をとりあげ、人間の主体性と環境の関係についての思索として読み解く。それぞれの物語世界が、極端に情報環境が過剰もしくは欠如した人間的存在を推論的に設定することで、エコロジック的発想の様々な型の考察もしくは批判となっていることを示す。

第二部 (11:15~12:30)

司会 中村登志哉 (名古屋大学)

(1) Ka Po Ng (愛知文教大学)

論題: How would the 'China factor' affect the Australia-US alliance?

要旨: In January 2012, the US made its return to the Asia-Pacific official by proclaiming a strategy of 'rebalancing' towards the region. Australia, through the ANZUS Treaty of 1951, has been an important US ally in the region. But, like most military-strategic alliances, it is a product of the Cold War. Although the alliance was invoked for the first time in 2001 and, thus, seemed prove its continued relevance in the new century, this in fact

highlighted the issue of changing international security landscape. It should suffice to name just Australia's reaffirmation of its intention to deepen its engagement with Asia, rising Chinese power, the ongoing financial crisis, and new sources and forms of security threats. Such developments lead to many questions; among them: Do the bilateral economic ties between Australia and China have any impact on its security relations with the US? How important is the alliance for the new US strategy?

This essay intends to address these issues and examine the endurance of the Australia-US alliance through the lens of international relations theories in various traditions, especially against the background of a 'rising' China.

(2) 木村友彦 (ニューサウスウェールズ大学博士過程修了)

論題: 1970年代のオーストラリア社会における東ティモール支援活動に関する一考察

要旨: インドネシア軍がポルトガルの植民地だった東ティモールを併合することを意図して全面的な侵攻を開始した1975年12月前後の時期に、オーストラリアの社会ではインドネシアの軍事行動に反対し、東ティモールの民族自決や独立を擁護する運動や言論が強まった。本報告では、この時期のオーストラリアにおける東ティモール支援運動の展開について考察し、その特徴や意義またオーストラリアの外交政策との関係などについて議論することにした。



2. 第16回地域研究会(関西例会)報告

加賀爪 優

2月16日(土)に京都大学において、東京大学客員教授でかつジェームズ・クック大学教授のJustin Dabner先生による「オーストラリアのカーボン・マイニング税導入をめぐる」と題するシンポジウムが開催された。1997年の京都議定書発効以降、地球温暖化問題が声高に叫ばれ、同時にまた、資源開発ブームにより引き起された環境劣化が深刻な問題になりつつある。この二つの環境問題を緩和するために、労働党政権は炭素排出税と鉱物資源採掘税の改革を導入したが、この税制改革の取り扱いの拙さが現在の政治的混乱をもたらす結果となった。労働党内の意見の不統一に加えて、資源開発会社のマスコミを利用した実に効果的な反対運動・宣伝が政府活動の力量を遥かに上回っていた。本セミナーではこの間の政府の対応の拙さと資源開発会社の極めて効果的な反対宣伝活動について、興味深い講演がなされた。これに対して、カーティン大学のMichelle Rosano教授と京都大学の加賀爪優地域担当理事からのコメントに加えて、当日は関東の公的機関からの参加もあり、総勢35名を上回る出席者との間で多くの質疑応答が展開された。また、講演後の懇親会でも引き続き和やかな雰囲気の中で積極的に議論が交わされた。

3. 会費納入のお願い

通常、年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2013年5月に年会費を納入しても、2012年度未払いの場合、それは2012年度の会費となります。すなわち、2013年度は未納ということになります。また2011、2012年度未払いの場合、2011年度分の会費納入になります。

【2013年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ】未納年度分(2011年度を含め最多3か年)を速やかに納入願います。未着のかたはアカデミーセンター オーストラリア学会担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在2013年3月発行、第26号)までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(アカデミーセンター)までご連絡ください。

4. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号 27 号の原稿締め切りは 8 月末日となります。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは 26 号掲載の「投稿要領」（2011 年 12 月 11 日一部改訂）をご覧ください。また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2013 年 10 月 30 日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだ CD もしくは USB）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会
担当 TEL：03-5937-0249, FAX：03-3368-2822 email: asaj-post@bunken.co.jp

※4 月以降変更になりましたのでご注意ください。

5. 業務委託先変更のお知らせ

オーストラリア学会の事務業務委託先が 4 月より株式会社国際文献社（アカデミーセンター）に変更になりました。入退会のご連絡、住所変更等の届け出、会費の納入状況等に関するお問い合わせは、下記の新しい連絡先までお願いいたします。

2010 年 12 月～2013 年 6 月役員一覧

[代表理事] 有満保江	[副代表理事（編集）] 加藤めぐみ
[副代表理事（総務）] 鈴木雄雅	[学会誌担当理事] 飯笹佐代子、川口章、 藤川隆男、安田純子
[会計担当理事] 川口章	[HP 担当理事] 小林信一、鈴木雄雅
[広報・会報担当理事] 塩原良和	
[副代表理事（企画）] 永野隆行	
[全国研究大会担当理事] 塩原良和、田澤佳昭	[監事] 関根政美、谷内達
[プロジェクト担当理事] 鎌田真弓、松繁寿和、 福嶋輝彦、村上雄一	
[関東例会担当理事] 塩原良和、橋本雄太郎	
[関西例会担当理事] 加賀爪優、南出眞助	

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL：03-5937-0249 FAX：03-3368-2822 Email：asaj-post@bunken.co.jp

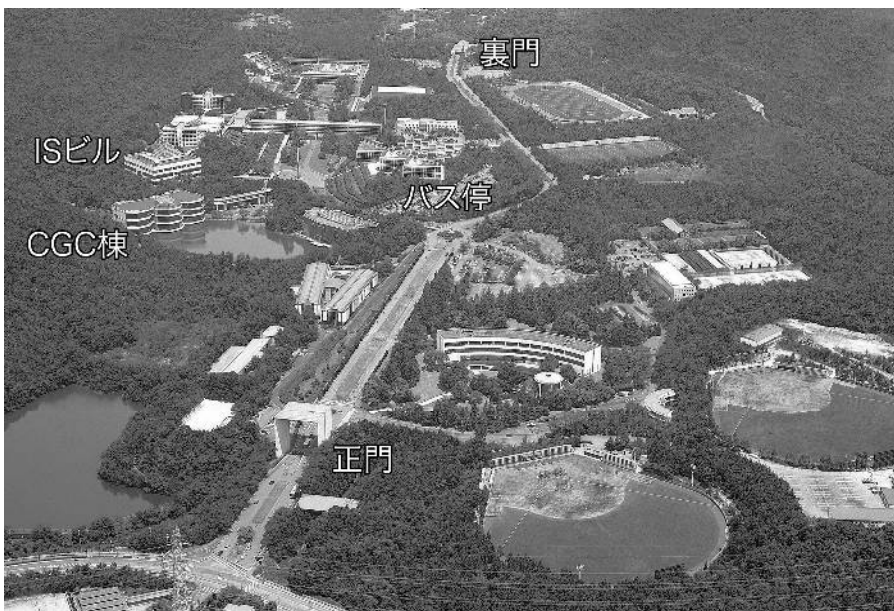
【オーストラリア学会事務局】

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学文学部新聞学科内鈴木雄雅研究室気付
TEL：03-3238-3983 FAX：03-3238-3094 Email：HAF00025@nifty.ne.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。[編集担当：塩原良和（慶應義塾大学）／編集協力：濱野健（北九州市立大学）]

【名古屋商科大学 キャンパス案内】



【交通アクセス】

名古屋駅から

地下鉄東山線「藤ヶ丘駅」 - リニモ「公園西駅」 - 臨時シャトルバス 10分

地下鉄東山線「伏見駅」 - 地下鉄鶴舞線/名鉄豊田線「米野木駅」 - 名鉄バス「名商大行」 15分

- * 路線バスは時間帯によって正門前での乗降車の場合がありますので、ご注意ください。
- * タクシーをご利用の場合は地下鉄東山線「本郷駅」「藤ヶ丘駅」、あるいは地下鉄鶴舞線「赤池駅」、名鉄豊田線「米野木駅」からご乗車ください。「公園西駅」にはタクシー乗り場はありません。
- * 学内行事による「赤池駅」「米野木駅」からの臨時便等、詳細は大会特設サイト (<http://www.nucba.ac.jp/research/australia>) でご確認ください。

中部国際空港から

空港バス「藤ヶ丘行」 - リニモ「公園西駅」 - 臨時シャトルバス

